

2021年9月21日



# 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

## 2021年8月 マンスリー レポート

集計企業数 **50** 社

### ① 売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	65,912,145 万円	100.0%	99.0% (100.6%)	64,243,236 万円	97.8% (99.6%)
食 料 品	58,028,747 万円	88.0% (86.6%)	100.1% (101.4%)	56,489,238 万円	98.7% (100.1%)
農 産	8,812,852 万円	13.4% (12.4%)	93.1% (96.8%)	8,582,822 万円	91.9% (95.6%)
水 産	5,191,984 万円	7.9% (8.2%)	99.7% (98.0%)	5,049,557 万円	98.1% (96.6%)
畜 産	7,186,433 万円	10.9% (10.5%)	101.5% (97.8%)	6,991,060 万円	100.0% (96.4%)
惣 菜	7,188,954 万円	10.9% (10.5%)	105.2% (108.3%)	6,971,542 万円	103.4% (106.6%)
日配食品	13,180,004 万円	20.0% (19.9%)	100.7% (103.2%)	12,833,691 万円	99.2% (102.0%)
加工食品	16,468,520 万円	25.0% (24.9%)	101.0% (102.4%)	16,060,565 万円	99.9% (101.3%)
生活関連	3,829,156 万円	5.8% (6.0%)	93.0% (93.2%)	3,736,339 万円	92.6% (92.6%)
衣 料 品	1,086,735 万円	1.6% (2.3%)	82.4% (96.4%)	1,075,537 万円	84.5% (98.5%)
そ の 他	2,967,508 万円	4.5% (5.1%)	93.1% (99.6%)	2,942,122 万円	93.8% (100.5%)

### ② 数 値

全店総売上高	65,912,145 万円	店舗数	4,982 店舗
総売場面積	9,950,601.4 m <sup>2</sup>	総従業員数	281,025 人
店舗平均月商	13,230.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,110.9円 (101.9%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.6 万円 (6.4万円)	平均売場面積	1,997.3 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	21.9 万円 (21.0万円)	パート比率(前月)	77.1% (76.4%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 8月の天候について、降水量は、北日本の日本海側では少なく、東日本の太平洋側ではかなり多く、西日本では8月としては記録的に多かった。気温は、西日本では低かった。日照時間は、西日本ではかなり少なかった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では、野菜全体が前年に比べて安値であったものの、土物類を中心に下旬にかけて卸売価格が上昇した。国産果物は、上旬は前年に比べて高値であったものの、下旬にかけて安値、輸入果物は前年に比べて安値で推移した。水産物は、前年に比べてやや高値で推移した。畜産物では、牛肉は前年に比べて高値で推移、豚肉は前年に比べて安値であったものの、平年に比べて高止まりが続き、鶏肉はもも肉が安値であったものの、むね肉は高値で推移した
- ・ 土・日・祝日の合計は10日で、前年と比べて土曜日が1日少なかった
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、8月末日時点で、緊急事態宣言が21都道府県、まん延防止等重点措置が12県で発令されていた
- ・ 商品動向全体では、お盆期間中の全国的な降雨による気温低下の影響で、夏物商材が低調であった。また、緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の発令により、お盆期間中の帰省需要の落ち込みがみられた。一方で内食需要の継続により、日用品に動きがみられた

## 《 商品動向 》

### ○農産

- ・ 中旬以降の野菜の相場高騰により、トマトやきゅうり、土物類が低調であったものの、きのこ類が好調であった
- ・ ぶどうや梨、スイカ、ももは、好不調が分かれた

### ○水産

- ・ 魚卵、鮭鱒類、切身、冷凍魚が好調であった
- ・ お盆期間中の帰省需要落ち込みにより、刺身類が低調であった

### ○畜産

- ・ 豚肉、鶏肉は好調、牛肉は好不調が分かれた
- ・ 焼肉用は前半オリピック需要により好調であったものの、後半は帰省需要の落ち込みにより苦戦した
- ・ 日用品の動向がよく、特にひき肉は好調であった

### ○惣菜

- ・ オリピックや緊急事態宣言による家飲み需要で、からあげ、スナックなどおつまみ商材が好調であった
- ・ 帰省需要の落ち込みにより、お盆期間中はオードブル、寿司は低調であった

### ○日配食品

- ・ 中旬以降の気温低下により、アイス、冷やし麺が低調であった
- ・ パン、鶏卵、冷凍食品、練製品が好調であった

### ○加工食品

- ・ 気温低下により、飲料やそうめんなど夏物商材が低調であったものの、即席麺やレトルト、菓子類が好調であった

### ○お盆商戦の動向について

- ・ 緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された地域では、帰省客の減少により、寿司やオーダブルなどごちそうメニューや、切り花や手土産など墓参り関連商品、バーベキュー商材は低調であった。大型商材は苦戦し、小型パックや個食対応の商材に動きがみられた
- ・ 降雨による気温低下の影響で夏物商材が低調であった一方、豚肉や鶏肉、パンなど日用品に動きがみられた